新潟をひとつにするのはスポーツだ

定価：本体787円+税

NIIGATA Sports Magazine

新潟スポーツマガジン スタンダード

Standard

2019 August-September

[8・9月] Vol.6

新潟 NIIGATA

酒井高徳
進化第二章、始まる

アルビレックス新潟
本間至恩

アルビレックス新潟レディース
平尾知佳

新潟サッカー特集

PRIDE OF NIGATA

そのサッカーに熱はあるか。

全国高校サッカー選手権大会新潟県大会
大会の見どころ
有力選手ピックアップ

大会出場 男女62チーム 選手名鑑

新潟バドミントン特集
シャトル烈風

NIIGATA Sports Magazine
Standard 新潟スタンダード
新潟スポーツマガジン
2019 8-9 CONTENTS
表紙撮影◉嶋田健一

004 新潟サッカー特集
PRIDE OF NIIGATA

006 進化第二章、始まる
酒井高徳

025 **第98回全国高等学校サッカー選手権大会 新潟県大会**
大会の見どころ・組み合わせ
有力選手ピックアップ
晴山岬(帝京長岡高校)・高橋一誠(新潟明訓高校)
齋藤山斗(日本文理高校)・庄内碧(北越高校)
釜田恒太朗(新潟西高校))・谷内田哲平(帝京長岡高校)
平山颯太(北越高校)・伊東直人(加茂暁星高校)
古俣眞斗(日本文理高校)・菅原彰吾(開志学園JAPANサッカーカレッジ高等部)

034 大会出場
男女62チーム選手名鑑

010 アルビレックス新潟
本間至恩

012 アルビレックス新潟レディース
平尾知佳

014 新潟県人初のJリーグレフェリー
田中玲匡

016 第11回新潟県ビーチサッカー大会決勝
砂浜の格闘

018 Jリーグベストピッチ賞6回受賞の職人技
ビッグスワンの守り人

020 U-17新潟選抜vsU-17日本代表が激突
第23回国際ユースサッカーin新潟

022 高校生と専門学校生・進路としての「サッカー留学」
サッカーを学ぶ、海外で学ぶ

062 新潟バドミントン特集
シャトル烈風
敬和学園大学・北越高校
新発田南高校・新潟青陵高校
日本文理高校・開志国際高校
栃尾ジュニアバドミントンクラブ
阿賀野ジュニアバドミントンクラブ

072 第50回新潟県中学校総合体育大会
バドミントン競技リポート

082 新潟のラケットスポーツを支える人々
プロショップ サイトウスポーツ

084 夏の高校野球
新潟大会メモリアル

087 Standard Eyes
笹川浩志(新潟県高野連公式記録員)
高橋竜平(ボクシング)
清水咲里(チアリーディング)
山陰一・森准平(モータースポーツ)

097 We are アルビレックス
新潟アルビレックスBB
今村佳太
新潟アルビレックスランニングクラブ
長谷川直人
新潟アルビレックス・ベースボール・クラブ
前川哲

連載
001 S-motion 高野廣子バレエスタジオ ル・レーブ
105 I LOVE SPORTS

そのサッカーに熱はあるか。

STANDARD SPECIAL
新潟サッカー特集

PRIDE OF NIIGATA

写真：アフロ

2-0は絶対的リード、といわれる。
その時、「勝者のメンタリティー」が試される。
心身を鍛え積み重ねてきた自信が、
どんな場面にも臆しない冷静さをさらに研ぎ澄まし、
タイムアップまで相手の隅々に心を砕く。
「油断するな」とは、己を信じ切れていない心の揺れ。
信じるからこそ「勝利は必然」と思い闘える。
威風堂々―PRIDEを熱く持てる者だけが栄冠を手にできる。

第98回全国高等学校サッカー選手権大会 新潟県大会

輝く瞬間

このPLAYERに注目

値千金のゴールを決める。絶体絶命のピンチをしのぐ。
立ちはだかる壁を突破して、チームを栄光へと導くのは誰だ。

撮影◉嶋田健一・伊平裕哉

【新潟明訓高校】

MF 高橋一誠
ISSEI TAKAHASHI

3年／162cm・60kg
前所属チーム：グランセナ新潟FCJr.y

昨年から中心選手で活躍。キャプテンとなった今年は、ボランチとして攻守にわたり献身的なプレーでチームを支える。正確なキック力で、新潟明訓の持ち味の一つであるセットプレーのキッカーも務める。

【日本文理高校】

FW 齋藤山斗
YAMATO SAITO

3年／173cm・70kg
前所属チーム：内野中学校

1年からベンチ入りする逸材。ワントップとして自由にプレーすることを許されているほど、チームの信頼は厚い。県総体準々決勝で痛めた、利き足である右太腿のけがの回復具合が気になるところ。

【帝京長岡高校】

FW 晴山岬
MISAKI HARUYAMA

3年／171cm・62kg
前所属チーム：長岡JYFC

昨年の全国選手権ではハットトリックを達成するなど、チームをベスト8に導いた立役者の一人。FWとしては小柄だが、持ち味とするオフ・ザ・ボールの動きで得点を量産する。逆境時のメンタル面の強さも特長。

新潟バドミントン特集

シャトル烈風

Niigata Badminton

**世界のトップランキングに多くの日本人が名を連ね、
来年に迫ったオリンピックでもメダル獲得の可能性が高いバドミントン。
かつてバドミントン王国として名を馳せた新潟は、
令和の時代に再びその輝きを取り戻そうとしている。
『王国』復活の鍵を握る、
新潟バドミントン界の人々を追った。**

撮影◉嶋田健一　文◉編集部

新潟で愛されるバドミントンが誇りになる日に向けて

―新潟県バドミントン協会・坂上昭理事長に聞く―

新潟におけるバドミントン普及の歴史は古い。

「新潟県バドミントン協会が設立されたのは昭和24年。これは全国でも4番目の古さです。冬でもできるインドアスポーツであることや、当時の役員が積極的な普及活動と全国大会の誘致を行った甲斐もあって、新潟では早い時期にバドミントンが市民権を得ていました。その分、競技レベルの向上も早く、結果として優れた選手や指導者も集まり、昭和30～40年代のバドミントン王国・新潟へとつながっていくのです」

新潟県バドミントン協会坂上昭理事長は、新潟とバドミントンの結び付きをひも解いてくれた。

平成30年度、日本バドミントン協会の登録会員数9300人は全国で9番目。新潟、長岡（柏崎、魚沼地域含む）、県央、佐渡の各地で社会人リーグが開催され、その規模は全国有数。そして、新潟県の人口が減少する一方で愛好者数は増えているなど、新潟のバドミントン界は賑わっている。

しかし、全国的な大会の成績となると、『王国』時代の勢いは感じられない。往時を知る人にとっては寂しい限りだろう。

「新潟のレベルが落ちたというより、他県のレベルアップのスピードが早く、追い付けていない状態です」

しかし、バドミントン王国・新潟のDNAは絶えてはいなかった。優れた資質は先達から指導者、そして選手へと着実に引き継がれており、近年では効果や実績が目に見える形になってきたという。

「まず小学生。指導陣の熱心な育成が実り、この10年では全国小学生バドミントン選手権大会の男子団体戦で全国優勝の他、数多くの全国大会で上位入賞を果たし、中学生は勢いそのままに急成長中。そして高校生。男女共にライバル校が台頭してきて、良い切磋琢磨の環境ができつつあります。大学では強力な指導者の下に学生が集まり、北信越大学バドミントン選手権大会で男子が団体制覇。そして全日本学生バドミントン選手権大会では上位を狙える位置まで来ています」

これら全世代の強化に通じる包括的な施策として、今年、コーチングセミナーをスタートした。「新潟でもバドミントンを極めることができる」と感じてもらうため、一層の指導力強化を図る。セミナーの規模拡大とレベルアップも計画している。

もちろん、同じようなことは他県でも行われ、すでに研さんを積んでいる。新潟が成果を出すのは簡単ではない。それでも、最初の一歩がなければ何も始まらない。

「ファン層拡大や技術を学ぶためには、ハイレベルな試合を身近に感じられるS／Jリーグや各種全国大会の継続的な誘致が重要です。そして、多くの指導者や関係者の力も得ながら、将来的には実業団チームを作り、選手を心身共に支えたい。新潟復活のきっかけ作りをすることが、私たち大人の役割であると考えます」

新潟のゼッケンを着けた選手が国内で躍動し、オリンピックで日の丸を着けた新潟出身選手のスマッシュに歓声が上がる時、バドミントン王国・新潟は、完全に復活する。

Profile 坂上昭（さかがみ・あきら）◉1954年（昭和29）4月3日生まれ。現在、新潟県バドミントン協会理事長（2011年～）、日本バドミントン協会参与（2017年～）、新潟市スポーツ協会副会長（2016年～）を務め、バドミントン界の発展に尽力する。

第101回全国高等学校野球選手権新潟大会メモリアル

日本文理が2年ぶり10回目の優勝

2019年7月24日 HARD OFF ECOスタジアム新潟

7月6日、HARD OFF ECOスタジアム新潟。第101回全国高等学校野球選手権新潟大会開会式。残念ながら新潟県高野連加盟全校の参加はならなかったが、77チーム85校の球児たちが集まった。

春の大会が終わってから、久しぶりに会う球児たちは、一段と鍛え上げられていて、日焼けした褐色の顔がたくましく見えた。

新潟県高野連が球数制限を通じて、新しい高校野球の形を全国に投げかけ、「未来に向けた大会」と位置づけたこの大会は、開会式直後に学童野球の少年少女と高校球児のキャッチボールイベントが行われるなど、高校野球が野球界の今後に光明をもたらす存在でありたいという意気込みにあふれるものだった。

新潟向陽高校野球部・大滝和真主将の「試合が終わったら、良き勝者、良き敗者を目指す」という選手宣誓は、スポーツマンシップについてよく考える機会になっただろう。

決勝は東京学館新潟高校と日本文理高校の対戦。決勝戦の日本文理は誰もが舌を巻く強さだった。しかし、彼らは最初から強かったわけではない。昨年、優勝候補の筆頭に挙げられながら、4回戦で新潟高校に敗れた。その後、不祥事もあった。そこから彼らは、黙々と練習に打ち込むことで、立ち上がった。秋、春と優勝しているにもかかわらず、大会前は混戦といわれていた。

実際、日本文理の力は、他校を圧倒するものではなかったかもしれない。しかし、この夏、日本文理は一戦、また一戦と試合を重ねるたびに成長し、力を付けていった。それは、目を見張るような成長だった。

敗れた76チームに、野球に懸ける熱量の違いがあったわけではない。ひたむきにボールを追った毎日は敗れたからといって色あせるものではない。

今夏、展開された数々のグッドゲームに、野球ファンは、未来への希望をつなぐことができた。夏が終わり、もう一つの夏が始まる。来年の「太陽劇場」はすでに始まっている。

田村 颯瀬
（東京学館新潟高）
3投手による継投で勝ち抜いてきた東京学館新潟高。田村は決勝までの4試合は無失点だった。

長坂 陽 主将（日本文理高）
強く振り抜くバッティングで、大会通じてチームトップの13安打を放ち、バットでもチームを引っ張った。

南 隼人（日本文理高）
昨秋の右ヒジ痛から今夏マウンドに帰ってきた。決勝戦では6回1安打無失点と完璧な投球だった。

NIIGATA Albirex BB

close-up member

新潟アルビレックスBB

今村 佳太 30

Keita Imamura

撮影◉嶋田健一

Profile 今村佳太(いまむらけいた)
◎1996年(平成8)1月25日生まれ、長岡市出身。長岡・東北中から長岡工高に進み、新潟経営大では北信越大学選手権で4度、得点王を獲得した。2017年11月に新潟アルビレックスBBに入団。18年8月に日本代表に選ばれ、オセアニア遠征に参加した。ポジションはSG/SF。191cm、92kg。背番号30。

心の成長、プレーの強度 すべては「行動で示す」

プロバスケットボールBリーグは10月の2019-20シーズン開幕に備え、各チームが調整を始めている。B1中地区で2018-19シーズン、初の地区優勝と初のチャンピオンシップ進出を果たした新潟アルビレックスBBも、8月からチーム練習を開始。その中で、SG今村佳太は特別な思いで新しいシーズンに備えている。2018-19シーズンは日本代表に選出されたが、アジア大会での不祥事で公式戦出場停止を科せられた。迎える新シーズンで生まれ変わった姿を見せるため、気持ちを緩めずに準備を進めている。

We are ALBIREX

新潟のスポーツシーンを彩る
オレンジアスリートの情報箱

「忘れられない、忘れてはいけない」

強く心に留め置いているシーンがある。

「あそこで僕にボールが来たということに意味がある」。その思いを胸に、今村は2019-20シーズンの開幕に備えている。

8月に入りチーム練習が始まった。7月下旬には若手4人で韓国リーグ・仁川電子ランドエレファンツの練習に参加するなど、「武者修行」。4月のシーズン終了後から欠かさず自主トレを続けてきた。開幕に向けた活動を進める意識の根底にあるのは、ある1つのプレーだ。

4月28日のBリーグ2018-19シーズン・チャンピオンシップ(CS)準々決勝、新潟アルビレックスBBとアルバルク東京の第2戦。2戦先勝で準決勝へ勝ち上がるシリーズで、新潟は初戦で敗北。後がない状況で2戦目に臨んだ。その第4Q、残り1秒。スコアは68-71。勝つためにはまず同点にしなければならない。土壇場でリバウンドからのパスが今村に回ってきた。

位置は3点シュートラインの左45度。もともと3点シュートは得意。チームメートがラストチャンスを託した。シュート態勢に入った。リングを視界に捉えた。だが、シュートを打つ直前、今村は左コートエンドにいたラモント・ハミルトンにパスをした。ハミルトンがシュートを打つ前に試合終了のブザーが鳴った。

「打たなかったというか、打てなかったですね」。普通なら迷わず狙っていた。勝負を決めるシュート、大事な1本ほど「俺に打たせろ、と思う」。勝負強さには自信があった。「あのときは自分が打ってもいいのかな、という思いがよぎったんです。悔いが残ります。でも、それが今の僕の現状」

多くのものを背負って、コートに立っていた。昨年8月、日本代表として臨んだアジア大会で、チームの規律違反に当たる不祥事を起こし、1年間の公式戦出場停止処分になった。その後、社会奉仕活動などが評価されて、4月に復帰が認められた。そこからリーグ戦、CSの合計6試合でコートに立った。

新潟経営大学在学中だった2017年11月にプロ契約。すぐに出場機会を得た。全国的には無名ながら、身体能力の高さは多くのバスケ関係者が認めていた。2017-18シーズン終了後に日本代表候補に初選出。順風満帆な中で起こした不祥事に、心から反省した。試合開催日は会場の設営、撤収、グッズ販売、平日は下部組織のスクールで指導、そして早朝の体育館清掃。「周囲のために」という気持ちを忘れなかった。満期になる前の処分解除はそれが認められた証し。解除後も清掃活動などは継続した。「行動で示したい」という思いは強いままだった。

ただ、課題が残ったのがプレー面だった。試合に出場したのは大詰めの数試合。修羅場をくぐり抜けてきたチームメートとは、大事な場面でのゲーム感に差があった。何より、土壇場に耐えうるメンタルの強さが欠けていた。「まだ甘いということ」。シーズンの最後の最後に思い知らされた。

同時に、それが次への指針にもなった。「あそこで僕に任せてくれたことに感謝しなければならない。きっちりと決められる選手になりたいし、ならなければ」。内面、そしてプレー。変化や成長を示すのはコートの上。目指すべき自分の姿を追うシーズンが始まる。